



2025年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月16日

東・福

上場会社名 東宝株式会社

上場取引所

コード番号 9602

URL <https://www.toho.co.jp/>

代表者 (役職名)代表取締役社長

(氏名)松岡宏泰

問合せ先責任者 (役職名)上席執行役員コーポレート本部経理財務担当 (氏名)加藤陽則 (TEL)03(3591)1218

四半期報告書提出予定日 2024年7月16日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第1四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	85,976	15.9	24,576	34.1	23,351	24.2	16,149	31.4
2024年2月期第1四半期	74,153	19.9	18,324	28.4	18,802	18.8	12,291	6.7

(注) 包括利益 2025年2月期第1四半期 17,994百万円 (△4.9%) 2024年2月期第1四半期 18,916百万円 (74.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第1四半期	94.07	—
2024年2月期第1四半期	70.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第1四半期	611,907	458,344	72.3
2024年2月期	615,826	484,755	74.5

(参考) 自己資本 2025年2月期第1四半期 442,700百万円 2024年2月期 458,890百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	20.00	—	65.00	85.00
2025年2月期	—	—	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	35.00	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	280,000	△1.2	55,000	△7.2	57,000	△9.6	39,000	△13.9	227.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年2月期1Q	186,490,633株	2024年2月期	186,490,633株
2025年2月期1Q	16,978,395株	2024年2月期	12,490,741株
2025年2月期1Q	171,667,050株	2024年2月期1Q	174,574,680株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述などについてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境が改善する下で、景気の緩やかな回復基調が見られる一方で、海外景気の下振れリスクや物価上昇、金融資本市場の変動の影響などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢下にあつて当社グループでは、2022年4月に策定した「中期経営計画 2025」の最終年度にあたり、映画、アニメ、演劇、不動産の「事業の4本柱」それぞれにおいてさらなる成長を目指し、積極的な投資や着実な事業展開を進めております。当第1四半期連結累計期間における経営成績は、営業収入は859億7千6百万円（前年同四半期比15.9%増）、営業利益は245億7千6百万円（同34.1%増）、経常利益は233億5千1百万円（同24.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は161億4千9百万円（同31.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

映画事業

映画営業事業では、東宝(株)において、共同製作や配給した作品のうち、「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」が大ヒット、「変な家」「映画ドラえもん のび太の地球交響楽」「ゴジラxコング 新たなる帝国」もヒットいたしました。また、前連結会計年度中に公開された「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」が引き続き高稼働となり、興行収入100億円を突破いたしました。その他、昨年公開し話題となった「ゴジラ-1.0」の国内配信権収入が業績に寄与いたしました。これらの結果、映画営業事業の営業収入は19,730百万円（前年同四半期比42.4%増）、営業利益は9,873百万円（同70.3%増）となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、映画館への配給が13,951百万円（前年同四半期比22.6%増）、劇場用映画の国内配信が2,361百万円（同713.5%増）となりました。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、上記配給作品等を上映いたしました。洋画のヒット作に恵まれなかったこともあり、当第1四半期連結累計期間における映画館入場者数は11,220千人と前年同四半期比9.5%の減少となりました。これらの結果、映画興行事業の営業収入は21,372百万円（前年同四半期比7.9%減）、営業利益は3,805百万円（同18.5%減）となりました。なお、当第1四半期連結累計期間中の劇場の異動はありません。当企業集団の経営するスクリーン数は全国で722スクリーン（共同経営56スクリーンを含む）となっております。

映像事業では、東宝(株)において、「ハイキュー!!」「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「葬送のフリーレン」「薬屋のひとりごと」等、製作投資いたしましたTOHO animation作品の国内外の配信・商品化権収入に加え、各種配分金収入が業績に大きく貢献いたしました。パッケージ事業では「ゴジラ-1.0」が好調なセールスとなった他、TOHO animation作品の「葬送のフリーレン」「ウマ娘 プリティーダービー」「呪術廻戦」等の販売が伸びました。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」「ゴジラxコング 新たなる帝国」をはじめとする当社配給作品の販売が好調に推移いたしました。また、TOHO animation作品のキャラクターグッズ販売が営業収入に寄与いたしました。TOHOスタジオ(株)では、制作及びスタジオ事業の一体運営を図り、堅調に稼働いたしました。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では、原価管理に努めながら、映画やTV・CM等での舞台製作・美術製作やテーマパークにおける展示物の製作業務、メンテナンス業務等を受注いたしました。これらの結果、映像事業の営業収入は18,899百万円（前年同四半期比36.4%増）、営業利益は6,418百万円（同138.8%増）となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、アニメコンテンツの利用が7,743百万円（前年同四半期比47.6%増）、パッケージの販売が2,479百万円（同98.9%増）、映像作品等に係る美術製作が2,132百万円（同8.8%増）となりました。

以上の結果、映画事業全体では、営業収入は60,002百万円（前年同四半期比17.8%増）、営業利益は20,098百万円（同52.8%増）となりました。

演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場におきまして、「舞台『千と千尋の神隠し』」「Endless SHOCK (Endless SHOCK/ Endless SHOCK Eternal)」を上演し全席完売となりました。シアタークリエにおきましては「骨と軽蔑」が大入りとなった他、「町田くんの世界」「CROSS ROAD～悪魔のヴァイオリニスト パガニーニ～」「ナビレラー それでも蝶は舞うー」を上演いたしました。日生劇場では「王様と私」が大入りとなりました。また、「舞台『千と千尋の神隠し』」等の社外公演を展開いたしました。東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で好調に推移いたしました。

以上の結果、演劇事業の営業収入は5,246百万円（前年同四半期比2.6%減）、営業利益は1,009百万円（同16.7%減）となりました。

不動産事業

不動産賃貸事業では、前連結会計年度末に(株)東京楽天地を連結子会社としており、当第1四半期連結累計期間より経営成績に含んでおります。賃貸用不動産の空室率は、当第1四半期連結会計期間末において0.5%となりました。一方で、大規模修繕費など一時的な費用の増加があったことから、不動産賃貸事業の営業収入は9,419百万円（前年同四半期比29.6%増）、営業利益は2,835百万円（同14.1%減）となりました。

道路事業では、公共投資が底堅く推移しましたが、慢性的な建設技能者の不足に加え、労務費・資機材価格の上昇が継続する等、依然として予断を許さない状況が続きました。このような状況の中、スバル興業(株)と同社の連結子会社は、一般競争入札における総合評価落札方式への対応強化を図り、各種工事の受注に努めましたが、採算性の高い工事の減少がありました。その結果、道路事業の営業収入は8,062百万円（前年同四半期比3.8%増）、営業利益は1,551百万円（同5.0%減）となりました。なお、営業収入の主な内訳は、道路の維持管理・清掃等7,431百万円（前年同四半期比4.1%増）であり、またその他の収益229百万円（同9.7%増）が含まれております。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び東宝ファシリティーズ(株)において、原材料価格の高騰や人手不足が継続する中、新規受注に取り組むとともに請負金額の改定や業務の効率化等に努めました。その結果、営業収入は2,908百万円（前年同四半期比16.4%増）、営業利益は352百万円（同56.0%増）となりました。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は20,390百万円（前年同四半期比16.3%増）、営業利益は4,739百万円（同8.2%減）となりました。

その他事業

東宝共栄企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」やTOHOリテール(株)の劇場売店等において、積極的な営業活動に努めました。その結果、その他事業の営業収入は337百万円（前年同四半期比10.3%増）、営業利益は48百万円（同6.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は3,919百万円減少し、611,907百万円となりました。これは現金及び預金で16,217百万円、土地で12,361百万円、有価証券で6,381百万円の増加がありましたが、現先短期貸付金で28,000百万円、受取手形、売掛金及び契約資産で6,010百万円、投資有価証券で3,470百万円の減少があったこと等によるものです。

負債では前連結会計年度末から22,491百万円増加し、153,562百万円となりました。これは主に、短期借入金で19,997百万円の増加があったこと等によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比較して26,410百万円減少し、458,344百万円となりました。これは自己株式で22,394百万円の増加、非支配株主持分で10,220百万円の減少、利益剰余金で4,871百万円の増加があったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の通期連結業績予想につきましては、2024年4月15日付「2024年2月期 決算短信」において公表いたしました内容に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,733	54,950
受取手形、売掛金及び契約資産	42,075	36,064
有価証券	41,200	47,581
棚卸資産	13,130	13,644
現先短期貸付金	34,999	6,999
その他	38,396	31,779
貸倒引当金	△32	△38
流動資産合計	208,503	190,980
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	104,116	105,463
土地	104,539	116,901
建設仮勘定	5,738	8,783
その他（純額）	10,456	10,291
有形固定資産合計	224,851	241,440
無形固定資産		
のれん	1,927	1,833
その他	5,089	5,644
無形固定資産合計	7,017	7,478
投資その他の資産		
投資有価証券	154,175	150,704
その他	21,373	21,371
貸倒引当金	△93	△68
投資その他の資産合計	175,454	172,008
固定資産合計	407,323	420,926
資産合計	615,826	611,907

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,765	27,893
短期借入金	41	20,038
1年内返済予定の長期借入金	1,124	971
未払法人税等	12,002	7,257
賞与引当金	1,226	1,809
その他の引当金	86	23
資産除去債務	25	141
その他	21,868	35,250
流動負債合計	69,141	93,387
固定負債		
長期借入金	2,189	1,830
退職給付に係る負債	4,004	4,005
役員退職慰労引当金	162	158
その他の引当金	86	86
資産除去債務	8,079	8,132
その他	47,406	45,961
固定負債合計	61,929	60,175
負債合計	131,071	153,562
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	14,216	14,216
利益剰余金	439,921	444,793
自己株式	△42,827	△65,222
株主資本合計	421,667	404,143
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,216	33,181
繰延ヘッジ損益	—	△20
為替換算調整勘定	2,642	5,022
退職給付に係る調整累計額	363	373
その他の包括利益累計額合計	37,223	38,556
非支配株主持分	25,865	15,644
純資産合計	484,755	458,344
負債純資産合計	615,826	611,907

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年5月31日)
営業収入	74,153	85,976
営業原価	39,416	42,606
売上総利益	34,736	43,370
販売費及び一般管理費		
人件費	5,048	5,958
広告宣伝費	1,931	2,672
賞与引当金繰入額	509	622
退職給付費用	295	256
役員退職慰労引当金繰入額	7	11
借地借家料	2,378	2,255
その他	6,240	7,016
販売費及び一般管理費合計	16,412	18,793
営業利益	18,324	24,576
営業外収益		
受取利息	169	56
受取配当金	57	27
持分法による投資利益	78	—
為替差益	129	217
その他	104	142
営業外収益合計	540	443
営業外費用		
支払利息	1	13
持分法による投資損失	—	1,644
子会社清算損	51	—
その他	7	11
営業外費用合計	61	1,668
経常利益	18,802	23,351
特別利益		
受取保険金	—	20
特別利益合計	—	20
特別損失		
固定資産圧縮損	—	9
出資金評価損	107	—
特別損失合計	107	9
税金等調整前四半期純利益	18,695	23,362
法人税、住民税及び事業税	5,574	7,057
法人税等調整額	319	△354
法人税等合計	5,893	6,702
四半期純利益	12,802	16,660
非支配株主に帰属する四半期純利益	510	510
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,291	16,149

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	12,802	16,660
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,936	△1,035
為替換算調整勘定	148	222
退職給付に係る調整額	25	9
持分法適用会社に対する持分相当額	3	2,137
その他の包括利益合計	6,114	1,333
四半期包括利益	18,916	17,994
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,405	17,483
非支配株主に係る四半期包括利益	510	510

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	18,695	23,362
減価償却費	2,429	3,020
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7	△18
受取利息及び受取配当金	△226	△84
支払利息	1	13
持分法による投資損益 (△は益)	△78	1,644
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△4,948	6,181
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,752	△442
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,402	△4,901
未払消費税等の増減額 (△は減少)	496	356
その他	4,848	5,883
小計	20,860	35,014
利息及び配当金の受取額	345	85
利息の支払額	△7	△15
法人税等の支払額	△10,512	△11,339
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,685	23,745
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△14,199	—
有価証券の売却による収入	12,800	22,610
有形固定資産の取得による支出	△7,434	△19,915
有形固定資産の売却による収入	0	33
投資有価証券の取得による支出	△1,001	△1
子会社株式の取得による支出	—	△6,544
貸付けによる支出	△0	△220
貸付金の回収による収入	1	0
金銭の信託の取得による支出	—	△300
その他	△2,248	△1,367
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,082	△5,705
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	20,000
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△5	△2
長期借入金の返済による支出	△12	△512
自己株式の取得による支出	△1	△20,054
配当金の支払額	△6,822	△11,029
非支配株主への配当金の支払額	△199	△275
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1	△0
リース債務の返済による支出	△68	△4
その他	9	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,100	△11,879
現金及び現金同等物に係る換算差額	175	280
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,321	6,441
現金及び現金同等物の期首残高	112,121	82,424
現金及び現金同等物の四半期末残高	103,800	88,865

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年4月15日開催の取締役会決議に基づき自己株式4,000,000株の取得を行っております。この取得等により、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が22,394百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が65,222百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	50,925	5,385	17,535	73,847	305	74,153	—	74,153
セグメント間の内部売上高 又は振替高	538	4	1,280	1,823	49	1,873	△1,873	—
計	51,464	5,390	18,816	75,671	355	76,026	△1,873	74,153
セグメント利益又は損失(△)	13,155	1,212	5,160	19,528	51	19,579	△1,255	18,324

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。
2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,255百万円は、セグメント間取引消去△3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,252百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	60,002	5,246	20,390	85,639	337	85,976	—	85,976
セグメント間の内部売上高 又は振替高	651	8	1,278	1,938	43	1,981	△1,981	—
計	60,653	5,255	21,668	87,578	380	87,958	△1,981	85,976
セグメント利益又は損失(△)	20,098	1,009	4,739	25,847	48	25,895	△1,319	24,576

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。
2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,319百万円は、セグメント間取引消去△1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,317百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。